

5. カーボンニュートラルに向けた基本的な考え方

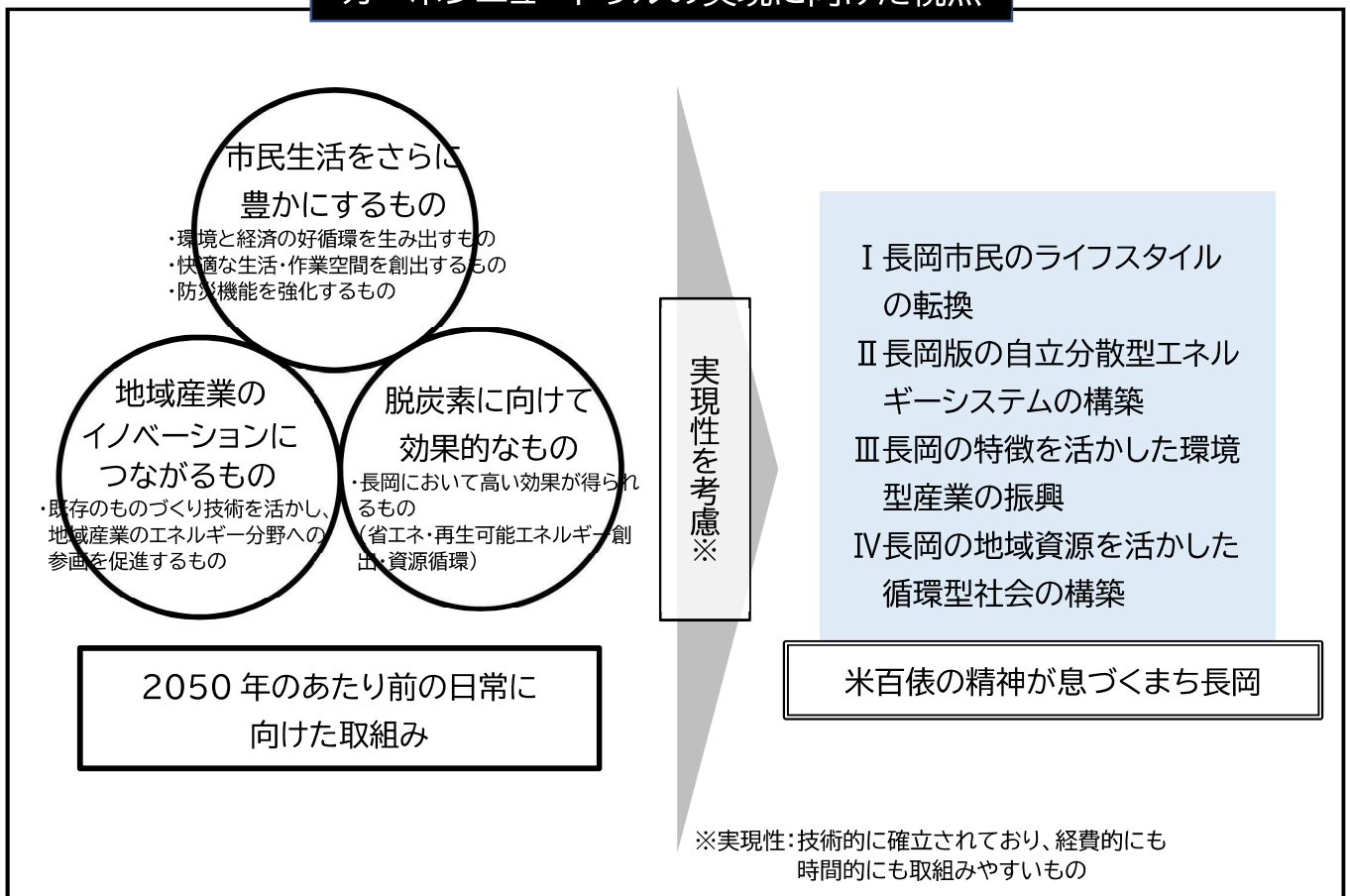
2050年のあたり前の日常に向けた取組み

2020年10月、国は「2050年カーボンニュートラル」を宣言した。この宣言は、暮らし・仕事・移動等のあらゆる場面で再エネ・省エネを導入し、さらには吸収源対策を実施するということである。これにより、あたり前に CO₂ 排出量と吸収量の総和をゼロとすることが目標とされる。目標の達成に向けて、短期的には既存の技術で今すぐ出来ることを着実に実行すること。長期的には新しい技術開発によるイノベーションを興すことが必要となる。以上を踏まえ、将来において標準化すべき姿を示し、市民、企業、行政などあらゆる主体が協働して取組を進めることが求められる。

米百俵の精神が息づくまち長岡

2050年の脱炭素社会の実現には、市民、企業、行政など、それぞれが主体的に取組を進めることが不可欠である。そのためには、長岡が誇る米百俵の精神を引き継ぎ、未来の長岡を担う人づくりが重要である。特に持続可能な社会の創り手となることが期待される子どもたちをはじめ、幅広い世代が環境問題について理解を深め、長岡の環境を守るための行動をとることができるよう、環境に関する教育や意識啓発をより一層推進する。

カーボンニュートラルの実現に向けた視点



I 長岡市民のライフスタイルの転換

食の地産地消、食品ロスの削減、公共交通の利用、プラスチックの再利用、カーボンオフセットなど、市民一人一人が出来るところから行動を選択できるよう環境啓発を行い、幅広いプロジェクトで環境配慮型のライフスタイルを促進する。

一方、住宅・建築物等の構造物は寿命が長く、今、新築・改修されるものは2050年も利用されている可能性が高い。このため、高性能省エネ機器への買い替え、再エネ電気への切り替え、高気密・高断熱化・躯体性能の向上などによるZEH、ZEBの拡大、住宅への太陽光発電設備の普及に取り組む。

- テーマ2 市民生活 -住宅のZEH化促進事業
 - 省エネ・再エネ設備導入促進事業
- テーマ3 産業部門 -事業所のZEB化促進事業
- テーマ5 行政部門 -省エネ性能向上推進事業
 - 地域クレジット制度の導入促進事業
- テーマ6 運輸・交通 -カーボンゼロ・ドライブキャンペーン事業
 - 公共交通利用促進事業
- テーマ7 資源循環 -食品廃棄物ゼロ推進事業

II 長岡版の自立分散型エネルギーシステムの構築

2050年の脱炭素社会の実現には、技術的にも普及・確立していてリードタイムの短い太陽光発電が重要。まずは、市の庁舎など公共建築物で率先して進め、地域共生型の太陽光発電の促進(PPA(第三者所有モデル))など、住宅などにおける自家消費型太陽光発電を促進する。また、地域単位の脱炭素を進めるため、再エネ、省エネ、ZEH、ZEB、EV車など新たな経済成長や防災機能の強化と結びつける施策に取り組む。

- テーマ2 市民生活 -省エネ・再エネ設備導入促進事業(再掲)
 - EV車導入促進事業
- テーマ4 農林水産 -農山漁村再エネ導入促進事業
- テーマ5 行政部門 -太陽光発電設備導入事業
 - EV車化・PHEV車化及び蓄電設備導入事業
 - 地域マイクログリッド構築促進事業
 - オフサイトPPA導入促進事業
- テーマ7 資源循環 -廃棄物処理施設の自立・分散型地域エネルギーセンター化事業

Ⅲ 長岡の特徴を活かした環境型産業の振興

長岡の特徴である天然ガスや高度なものづくり産業、全国有数の米産地であることを活かし、地域産業のイノベーションを興すことが重要。産学官連携で資源循環、再エネ、省エネ技術・設備導入などを積極的に進め、既存のものづくり技術を活かし、地域産業のエネルギー分野への参画を図り、環境と経済の好循環を促進する。

また、既存の技術・設備で今からでも出来ることを実行に移し、産業技術(基盤)の維持・発展につなげる。

- テーマ1 エネルギー研究・開発 -省エネルギー技術開発支援事業
- 節水型省エネ技術導入促進事業
- 都市ガス利活用促進事業

- テーマ3 産業部門 -熱エネルギー導入促進事業
- 省エネ・再エネ導入促進事業
- 省 CO₂ 型天然ガス利活用システムの導入促進事業

- テーマ4 農林水産 -スマート農業導入促進事業

- テーマ7 資源循環 -バイオエコノミー推進事業

Ⅳ 長岡の地域資源を活かした循環型社会の構築

長岡は日本一の大河である信濃川をはじめ、山や海などの豊富な自然に恵まれている。これらの地域固有の自然の価値を見直し、良質な水資源による日本酒・味噌・醤油などの発酵・醸造業といったバイオ産業や農林水産業など、経済循環を伴う資源の有効活用を推進する。

また、市民協力による生ごみ分別収集や全国最大規模のバイオガス発電センターに代表されるような、長岡がこれまで培ってきた資源循環の素地を生かしながら、持続可能な循環型社会に向けて、大量消費・使い捨て文化からの脱却に向けた取り組みを推進する。

- テーマ4 農林水産 -農地土壌への炭素貯留促進事業
- 木質バイオマス・バイオガス利用促進事業
- Jクレジット制度の導入促進

- テーマ7 資源循環 -生ごみバイオガス発電事業(拡充)
- プラスチック資源循環推進事業
- 使用済み製品のリユース等普及拡大事業
- 廃棄物処理や下水処理により得られるエネルギー活用事業